



第3回放射線影響分科会議事録

第3回放射線影響分科会を平成23年6月11日(土)13:00~17:00に実施した。会では、5/21の緊急シンポジウム以降に学会に寄せられた質問への対応状況、住民や作業者の被ばく管理状況と課題、緊急時環境放射線モニタリングの課題、クリーンアップ分科会より福島地区訪問結果と要請、遅れて公表された環境関係のデータに対する対応、放射線の線量基準についての説明があり、意見交換を行った。被ばく管理の問題では、住民の線量評価体制の整備の必要性と現存被ばく状況下における参考レベルの設定の課題が指摘された。緊急時の放射線モニタリングの課題では、航空機サーベイの運用に初動の遅れがあったことや開発途上の無人ヘリの見通し、また、これまでに国内で整備されてきたモニタリングロボットが十分活用されなかったことに対し、改良の方向性などが指摘された。また、放射線測定の基本的事業方や測定結果の理解の仕方などについて一般向けに整理し、HP等に解説として載せることとした。これに併せて、これまでHP上に掲載している放射線防護・線量評価関連の内容充実を目指し検討することとなった。また、遅れて公表された環境関係のデータについては、他分科会とも協力し、学会声明とするよう提案することとした。今後の課題として廃棄物処理の目次の検討、さらに、先般、原子力災害対策本部が発表した『原子力安全に関するIAEA閣僚会議に対する日本国政府の報告書—東京電力福島原子力発電所の事故について—』で十分な検討がなされていない課題について検討していくこととなった。

以上